

東京医療保健大学 感染制御学教育研究センター 感染制御実践看護学講座

現職業務を継続しながらの受講が可能

感染対策向上加算の要件となる担当看護師の養成講座

東京医療保健大学 感染制御学教育研究センター「感染制御実践看護学講座」は、感染対策向上加算の施設基準のひとつである「適切な研修」として、厚生労働省より認められております。

本講座修了生には、修了証を授与すると共に、感染制御実践看護師の認定証を付与します。

令和9年度 募集概要

募集人員： 20名

受講料： 770,000円（税込）

（保険料別・その他講座開講中に発生する教材費等については別途徴収する場合があります）

出願期間： 令和8年10月26日（月）～ 11月20日（金）必着

試験日： 令和8年12月11日（金）実施

試験方法： 筆記（択一式）・面接

検定料： 10,000円（税込）

合格発表： 令和8年12月16日（水）

開講日： 令和9年4月16日（金）（講義・実習等 約6ヶ月間）

※日程は変更になる可能性があります。

詳細は随時本学ホームページをご覧ください。

<https://www.thcu.ac.jp/research/lecture/detail.html?id=135>



問合せ先： 東京医療保健大学 感染制御学教育研究センター
感染制御実践看護学講座事務局

〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17

TEL: 03-5421-7655

E-mail: kansenkouza@thcu.ac.jp

修了生からのメッセージ

甲谷 千恵子

社会医療法人愛仁会 明石医療センター (兵庫県 明石市) 勤務

平成31年度修了生



COVID-19が海外で密かに流行し始めた頃、私はこの感染制御実践看護学講座を修了しました。久しぶりに“学生”として学ぶ時間、仲間と励まし合った日々、そして熱心にご指導くださった先生方との出会いは、今も心に深く刻まれています。時に厳しい言葉をいただいたこともありましたが、それは私たちを本気で育てようとしてくださった証であり、今ではかけがえのない財産です。

講座修了後、現場は一気に緊迫し、納体袋の対応や深夜まで続く保健所との連絡など、心がすり減る日々が続きました。それでも乗り越えられたのは、講座で学んだ感染制御の基礎とマインド、そして先生や仲間の支えがあったからです。感染制御は、派手さはありませんが、日々の小さな判断や行動が、確実に誰かの命を守る分野だと実感しています。

今も大学側から情報提供や相談の場をいただき、修了生同士のネットワークは広がり、共に新たな課題に取り組んでいます。あの時この講座で学び、問い、叱られ、支えられた経験がなければ、私はあの現場を乗り越えられなかったでしょう。もし一步踏み出すことを迷っている方がいたら、ぜひこの学びの場に身を置いてみてください。そして共に、未来の感染対策を築いていきましょう。

渡部 峻

JA 秋田厚生連 北秋田市民病院 (秋田県 北秋田市) 勤務

令和6年度修了生



私は数年間、リンクナースとして部署内の感染対策を行っておりました。そのような中、世界的なCOVID-19の大流行が起これ、私はコロナ患者の受け入れ病棟に異動となり、「コロナチーム」の一員として最前線での対応にあたることとなりました。当時はマニュアルもなく、対応の方法も確立していない状況でしたが、チームで話し合いを重ねながら、院内ルールをゼロから作り上げていきました。その折、当時の看護部長より「感染制御実践看護学講座」のお話をいただき、受講することを決めました。

初日のオリエンテーションを受けて、自分は半年間やっていけるのかと大きな不安を感じましたが、いざ講座が始まるとそんなことを考える暇もなく、あっという間の半年間でした。講座前半の講義では感染管理の第一線でご活躍されている先生方から最新の知見を学ぶことができ、大変貴重な学びの時間となりました。また、日々のレポートや指定施設実習、自施設実習を通して、自施設の課題を改めて見つめ直すことができ、新たな課題の発見にも繋がりました。この時の学びは専従となった現在においても、実践の道しるべとなっています。

さらに講座を通じて最高の仲間にも出会うことができました。半年間共に学んだ仲間とは現在でも連絡を取り合い、情報交換を行っています。皆さんも是非、感染制御実践看護学講座を通じて最先端の知識を学び、最高の仲間を見つけて下さい。



感染管理室に専従看護師として勤務していましたが、基礎を体系的に学びたいと考え、感染制御実践看護学講座を受講しました。第一線で活躍されている先生方の豊富な知識と経験に触れられたことは非常に貴重でした。また、講義だけでなく、グループワークやプレゼンテーションの機会も多く、現場で求められる調整力や人前で話す力を養う良いトレーニングになったと感じています。

さらに、課題を通じて自施設の現状を分析し、改善策を検討するプロセスや、その改善策を展開する自施設実習は、自施設の強みと課題を整理する良い機会となり、「働きながら学ぶ」という利点を最大限に活かせたと実感しました。実習を通じて、理論を現場に落とし込む難しさと重要性を改めて認識し、日々の業務改善に直結する学びを得ることができました。

この6か月間は決して楽ではなく、仕事と学び、家庭の両立に苦勞する場面もありましたが、同じ目標や悩みを抱えながら共に努力し、乗り越えた仲間とのつながりは、感染制御の専門家として歩む上での大きな支えとなっています。講座で得た知識と経験を糧に、現場での感染対策の質向上に貢献できるよう、これからも努力を続けていきたいと思えます。最後に、このような学びの場を提供して下さった講座運営の皆様にご心より感謝申し上げます。



看護師としてのこれからの人生を考えたとき、何か専門領域での活動を行いたいと漠然と考えていました。その中で、リンクナースや ICT での活動を経験し、感染制御を現場で実践することの難しさを痛感すると同時に、改善に向けた過程を考え、組織を巻き込みながら改善活動に取り組むことに大きなやりがいと魅力を感じ、感染制御実践看護学講座の受講を決意しました。

参考書で名前を目にする多くの講師の方の授業は、理論にとどまらず、現場での実践に沿った具体的な内容であり、これまで活動に自信を持てずにいた私にとって大きな刺激となりました。私自身が感染制御を行ううえで大切であると考え「人に伝える力」の重要性を改めて認識し、サーベイランス演習や実習成果発表を通して論理的に整理し、根拠をもって説明する力を養うことができました。「準備と練習を怠らない」という講師の言葉は、講座を修了した今でも深く印象に残っています。また、講座で学んだ内容を直ぐに自施設の臨床現場に持ち帰り、具体的な課題と結び付けて考えることで、知識は単なる理解にとどまらず、実践に活かせる力へと深まりました。

全国から同じ志を持って集まった仲間とは、それぞれの得意分野と苦手分野を補い合い、講義終了後も理解できるまで話し合いました。自施設実習中や試験前など不安になる場面では、オンラインで情報を共有しながら支え合い、全員で乗り越えることができました。社会人になってから、これほど信頼できる多くの仲間ができたことは、私にとって大切な宝物となりました。本講座で得た知識と仲間とのつながりを礎に、今後も現場に根ざした感染制御の実践を積み重ねていきたいと考えています。

感染制御実践看護学講座

感染制御実践看護師育成を目的とし、現在勤務している自施設の業務を継続しながら受講できる教育カリキュラム（週末講義、集中講義、指定施設実習、自施設実習、演習、課題レポートの提出など）を編成しています。また、講義は原則対面で行われますが、講義以外は、担当教員がWeb会議システム等を活用し、きめ細やかな個別指導が行われます。

■施設実習（指定施設・自施設）

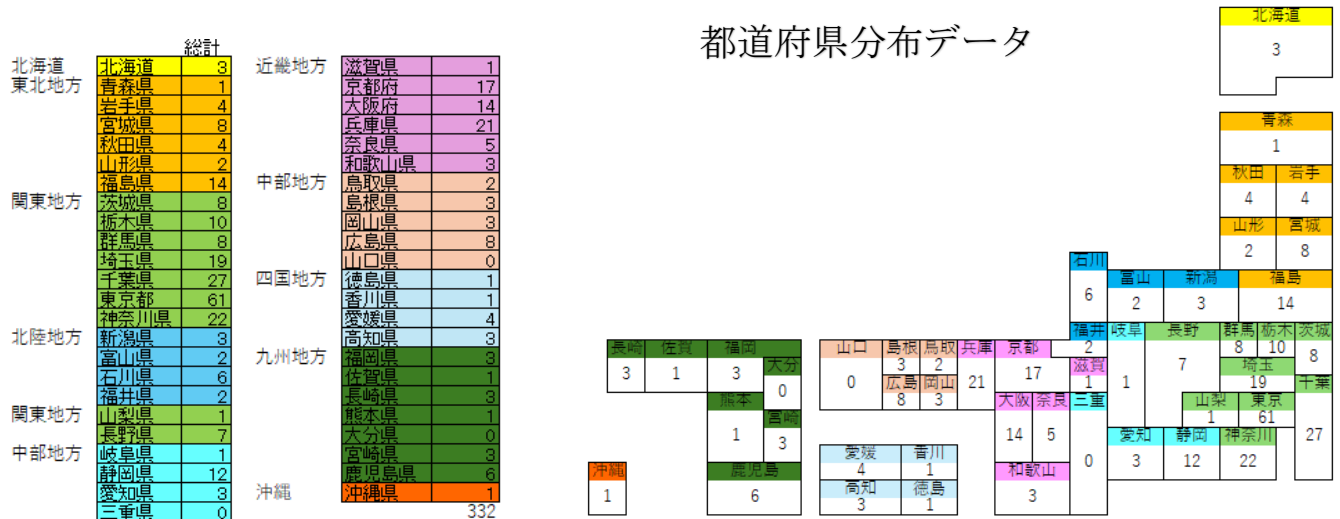
指定施設実習は、感染制御を先鋭的に実践している施設において1週間の実習を行います。自施設実習は、指定施設実習での経験をもとに、自施設の現有組織を活用し日常活動を重視した実習を6週間実施します。

■講座修了時

本講座修了試験に合格した看護師には、東京医療保健大学感染制御学教育研究センターから、「感染制御実践看護学講座」の修了証を授与すると共に、認定感染制御実践看護師(Certified Professional Nurse for Infection Prevention and Control/PNIPC)の認定証を付与します。

■修了生へのフォローアップ体制

本講座修了生へは、「フォローアップ研修会」を原則年1回開催し、日々の実践の振り返りとサポートを行います。



第1期（2010年度）～第16期(2025年度)の総計：332名

東京医療保健大学 感染制御学教育研究センター「感染制御実践看護学講座」事務局

〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17

五反田駅から徒歩8分（JR山手線、東急池上線、都営浅草線）

TEL：03-5421-7655 E-mail：kansenkouza@thcu.ac.jp

URL（東京医療保健大学）：<https://www.thcu.ac.jp>

URL（感染制御実践看護学講座）<https://www.thcu.ac.jp/research/lecture/detail.html?id=135>